

ルポ

ロシアの進攻開始から 1 年

—日本に避難したウクライナ人学生の今—

栗林 納々

【概要】

2022年2月24日、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まった。私はそのころ、オランダのアムステルダムに留学をしていた。24時間ずっと流れるテレビ中継に、現地の悲惨な様子を写した写真や映像が拡散される SNS、ダム広場の前には多くの人が集まり戦争反対の意思表示のためのデモ活動を行っており、さらにアムステルダムの駅ではウクライナからの難民が列を作り、生き延びる場所や方法を模索している。それほどまでに身近に戦争を感じていたにも関わらず、私は恐怖で何もできなかった。デモへの参加、ボランティアで難民支援活動、SNS を通して情報拡散など、すぐそこにできることはあったにも関わらず、自分自身の安心や安全のために何もしなかったのだ。それがずっと心残りだった私は、帰国後、どうにかしてウクライナ支援に関われないか、その方法を探していた。そして、本ルポルタージュでウクライナ戦争やウクライナ難民の現状と支援団体の活動について紹介することで、戦争について「知る」機会を設けることができるのではないかと考えた。

本ルポルタージュでは、はじめに、私が本ルポルタージュを作成することにした大きなきっかけであるウクライナ人学生の「ユスティナさん」との出会いを紹介している。第1章では、戦争が開始してからオランダで私自身が何を見たのか、聞いたのか、感じたのかに焦点が当てられている。ウクライナ戦争開始前と直後のオランダを含めたヨーロッパの国々の様子や、1か月以上が過ぎて人々の戦争に対する反応の変化などを紹介している。さらに、ウクライナ人の避難活動を車で支援した「高橋—ヴォルフス美令さん」に取材し、現地の様子を聞いた。第2章では、ウクライナ戦争の歴史や、ロシアのウクライナに対する強気な姿勢、軍事侵攻開始までの流れと現在の状況について文献を使って学術的に明らかにする。そして、本ルポルタージュのメインとなる第3章では、ウクライナ人学生支援会 JSUS に取材をして明らかになった事実を概説する。JSUS とはいったい何なのか、どのような活動をしているのか、支援には誰がどのように関わっているのか、問題点や苦悩する点は何か、支援を受けている学生の気持ちや、今の生活はどうなのか、JSUS のこれからの活動、そして私たちに何ができるのかを1つずつ見ていく。最後に、「戦争」のこれからを熟考する。

戦争のない平和な世界は当たり前ではない。今も世界のどこかでは紛争が起こり、いつ死ぬか分からない生活を強いられている誰かがいる。本ルポルタージュを通して、少しでもそのような人たちの為に自分にもできることがあるかもしれないな、そう感じていただけると嬉しい。